

第1回 てだこ浦西駅交通結節機能強化検討会

会議資料

目次

1. 検討の背景 ··· p.1

- 1-1. 沖縄交通リ・デザインについて
- 1-2. 検討にあたって
- 1-3. 検討の流れ（スケジュール）

2. 令和6年度に作成した整備方針（案） ··· p. 4

- 2-1. 上位計画等での位置づけ
- 2-2. 現状・課題
- 2-3. アンケート、ヒアリングの声
- 2-4. てだこ浦西駅に求められる機能
- 2-5. てだこ浦西駅交通結節機能強化の整備方針(案)
- 2-6. (参考) 本検討における計画範囲

3. 令和7年度の業務内容 ··· p.14

- 3-1. 業務概要、スケジュール

4. PIの実施内容 ··· p.15

- 4-1. 意見聴取（PI）のターゲット設定
- 4-2. PIの実施方法

5. 今後実施すべき実証実験の方針 ··· p.17

- 5-1. 実証実験の方針

6. 意見交換項目 ··· p.19

- 6-1. 意見交換にあたっての観点

1. 検討の背景

1-1. 沖縄交通リ・デザインについて

1

【沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言】

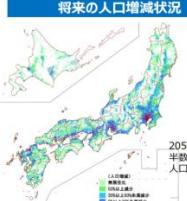
(一部引用)

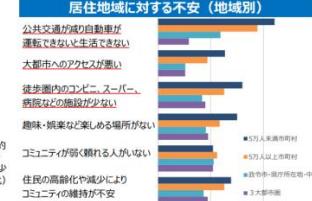
わたしたちは、沖縄に暮らす住民はもとより、経済・金融・エネルギー・観光・教育・交通・都市といった多様な主体も一体となって、「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、**沖縄の交通や都市のリ・デザイン（再構築）に取り組み続けることをここに宣言します。**

引用：沖縄交通リ・デザイン実現検討会資料（沖縄総合事務局HP）

公共交通と地域社会のリ・デザイン

○ 地方部を中心に、居住地域における移動に関する不安が高まるなど、地域の移動手段の確保が大きな課題。
○ 公共交通事業者は、長期的な人口減やコロナ禍に係るライフスタイルの変化等による利用者減により、サービス水準の維持が困難。

将来の人口増減状況

2050年には全国の約半数の人々が50歳以上で、人口が50%以上減少（2015年対比）
出典：総務省「平成27年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」等をもとに国土交通省作成。

居住地域に対する不安（地域別）

公共交通機関の自動運転が運転できない・運行がない
大都市へのアクセスが悪い
徒歩圏内にコンビニ・スーパー、病院などの施設がない
趣味・娯楽など集まる場所がない
コミュニティが弱く頼れる人がいない
住民の高齢化が進みによりコミュニティの維持が不安
出典：国土交通省「平成29年度国民意識調査」

食品アクセス困難人口（※）の推移

（千人）店舗まで直線距離で500m以上かつ、65歳以上で自動車を利用できない人
2005年：約7,000人
2010年：約7,500人
2015年：約8,500人
出典：農林水産政策研究所資料をもとに国土交通省作成

3つの共創
① 地域の共創
② 交通事業者間の共創
③ 他分野を含めた共創
（出典：国土交通省「公共交通リ・デザイン実現会議」）

地域の公共交通リ・デザイン実現会議（国土交通省を中心に関係省庁・有識者で構成）
(趣旨・目的)
関係省庁の連携の下、デジタルを活用しつつ、地域の多様な関係者の共創による地域公共交通の「リ・デザイン」や、幹線鉄道ネットワークの高機能化・サービス向上を促進することにより、**地域の公共交通リ・デザインと社会的課題解決を一體的に推進する**。

関係者の共創による、公共交通のリ・デザインや、ネットワークサービスの高機能化等が重要

重要な交通結節点である「てだこ浦西駅」

交通結節点整備について

■てだこ浦西駅のポテンシャル

■駅周辺の開発
駅の隣接エリアでまちづくり（区画整理事業）が進展中。
生活機能（販賣、医療、教育等）の立地
浦添市の既成市街地とも接続
駅ナカや駅周辺の活用可能地（駅前広場・高架下等）の存在

■中部・東海岸エリアとの接続
道路整備により、西原町方面との接続向上。西原町でもまちづくりが進展中。
IC整備により、沖縄自動車道を通じた中部エリアとの接続向上

■今後の視点
駅（交通拠点）周辺が地域住民の交流拠点となり暮らしの質を向上させる拠点
那覇都市圏と中部・東海岸エリアを結ぶ結節点
生活商業機能・2次交通機能を備えた、人の集まる交通結節点へ

（出典：内閣府 沖縄総合事務局）

交流拠点、交通結節点などの今後の視点を示唆

てだこ浦西駅の交通結節機能強化の検討に取り組む
(交流拠点、中部・東海岸エリアを結ぶ結節点、人の集まる交通結節点)

1. 検討の背景

2

1-2. 検討にあたって

【駅まちデザインの手引き】

(駅まちデザイン検討会／国土交通省 駅まちデザイン検討会)

- 駅とまちが上手につきあっていくために特に重要なポイントを駅まちデザインの5原則として紹介
 1. 多様な主体の連携
 2. **ビジョンの共有**
 3. 空間の共有
 4. 機能の連携
 5. 一体的で柔軟な管理運営



引用：駅まちデザインの手引き（国土交通省）

【交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン】

(国土交通省道路局／令和3年4月)

- 基本計画等で設定された計画の対象範囲や調査された現状・課題・ニーズ等を参考に、交通拠点を整備する周辺地域の課題やニーズを整理し、交通拠点の機能強化の必要性を明確化する。
- これらの課題やニーズを踏まえ、将来的な環境の変化等も考慮した未来志向の整備方針を作成し、**関係者間で調整・確認する**。

引用：交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（国土交通省）

交通結節点機能強化に向けて、**関係者間でビジョンの共有が必要**

【てだこ浦西駅交通結節機能強化検討会】

沖縄都市モノレールてだこ浦西駅（駅周辺の交通広場及び高架下等を含む）の交通結節機能強化に関する整備計画の策定に向け、駅に求められる乗換機能の強化及び利便性向上、賑わい創出等に関して、**有識者、交通事業者、地域団体等を含めた幅広い視点において意見交換すること**を目的として開催する。

1-3. 検討の流れ（スケジュール）

- 令和6年度は、現状分析・課題把握等を行い、関係者へのヒアリング・住民等へのアンケート調査を実施し、関係者会議による意見交換も踏まえ、交通結節機能強化に関する整備方針案を整理した。
- 令和7年度は、より幅広かつ的確に意見を抽出する目的で、住民等参加型のワークショップ等（PI）を実施し、有識者及び交通事業者等も含めた検討会にて意見交換を行ったうえで、交通結節機能強化整備計画（案）を作成する。
- 令和8年度は、上記の検討を踏まえ、必要な機能において実証実験等を実施し、交通結節機能強化整備計画を策定する。

令和 6 年度

■ 整備方針（案）の作成

次項より説明

令和 7 年度

■ 検討会の設置

学識経験者や交通事業者、民間事業者、行政等の関係者からなる
検討会を設置し意見交換を実施。



学生ワークショップ（沖縄県事業例）

■ PI（住民等参加型）

住民や学生等によるワークショップや、アンケート等により意見抽出。

令和 8 年度

■ 実証実験の実施

2次交通等の試験的導入、憩いの場・デジタル案内板の仮設置など、
必要な機能において実証実験を実施。



デジタルサイネージ案内（岐阜駅）



にぎわいイベント（ゆいレール祭り）

■ 整備計画の策定

PI、実証実験等を踏まえ、整備計画を策定。

令和 9 年度以降

■ 事業の実施・展開

事業の展開においては、役割分担等を踏まえ、各整備主体と連携した取り組みが必要。

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

4

2-1. 上位計画等での位置づけ（交通結節点関連）

指針

(交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（R3年4月）)

交通拠点に求められる具体的な機能として、交通機能（基本機能、交通結節機能）、防災機能、交流等機能
（地域の拠点・賑わい機能、サービス機能、景観機能）がある。¹⁾

県の上位計画

(沖縄県総合交通体系基本計画（R4年10月）等)

- 幸地IC（仮称）との結節を図り、中部方面以北からの路線バスやP&Rによる利便性を高める²⁾⁴⁾
- パーク＆ライド駐車場の利用促進、高速バスとの結節、シェアサイクル及びレンタカーとの連携²⁾³⁾⁵⁾
- ★ まちづくりと連携した交通結節点の整備を促進³⁾ 観光、私事や買物等の利用促進に向けたイベント実施の継続⁴⁾
- 観光二次交通の交通結節点の整備を促進³⁾
- バス停上屋の整備、デジタルサイネージ・動的データのオープン化⁵⁾

● 広域移動手段関係 ■ 駅の有する機能の関係 ▲ 浦添市内の周辺地域との連携関係 ★ まちづくり、賑わい関係

浦添市の関連計画

(浦添市地域公共交通計画（R6年2月）等)

- 総合交通結節点として整備（交通結節、交流機能、景観、防災等）、旅客輸送の起終点（営業所）の整備⁶⁾
- ▲ 今後市内で検討するコミュニティバス、マイクロモビリティとの連携強化⁶⁾
- ★ 大型商業施設、フィットネス施設、オフィス等の誘致による多機能拠点の形成（にぎわい）⁷⁾
- ▲ エネルギーセンターと地区内事業者の協力による防災への取組⁷⁾

1)：交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（R3年4月 国土交通省道路局）

2)：新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（R4年5月 沖縄県）

3)：沖縄県総合交通体系基本計画（R4年10月 沖縄県）

4)：沖縄県地域公共交通計画（R6年5月 沖縄県）

5)：TDM施策推進アクションプログラム（R4年12月 沖縄県）

6)：浦添市地域公共交通計画（R6年2月 浦添市）

7)：てだこ浦西駅周辺スマートシティマスターplan（R4年3月 浦添市）

主な目標

- ① 沖縄自動車道とモノレールの結節（バス結節、P&R促進、レンタカー連携等）
- ② 乗換機能強化（二次交通結節、多様なモビリティ確保、案内強化）
- ③ まちづくりと連携した拠点形成（にぎわい創出）

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

2-2. てだこ浦西駅における現状と課題

【交通結節点としての現状】

- てだこ浦西駅の交通結節機能として、P&R駐車場や駅前広場は既に整備されているが、バスとの結節など多様な交通機能の確保や、観光機能、商業機能、情報発信機能などについては十分とは言えない状況である。



■交通結節点として考えられる機能とてだこ浦西駅の現状（参考）

交通結節点として考えられる機能 (H20年度業務にて整理した機能)	てだこ浦西駅の交通結節点としての現状（R6年度）	
交通結節・連携機能	△	P&R駐車場やK&R・タクシー・バスのバース整備済みだが、利用促進における課題あり
交流機能	△	交通広場で不定期のイベント開催はあるが、常時人が集うような施設等が不足
観光機能	✗	観光案内等が不足
道の駅機能・商業機能	✗	地元の土産物や地域の体験等は提供されず
情報発信機能	✗	交通情報や魅力的な情報は提供されず
沖縄都市モノレールと沖縄自動車道との結節点における導入機能	パークアンドライド駐車場	○ P&R駐車場整備済
	駅前広場	○ 歩行者、自転車、バイク、送迎車のアクセス利便性確保
	モノレールとバスの結節施設及びバスターミナル	✗ 高速バスとの結節、バスターミナル機能は未達
	レンタカーデポ	✗ レンタカー営業所などが駅に近接されてない
	交通・案内情報施設	✗ 所要時間などのリアルタイムの情報提供は存在せず
	道の駅機能	✗ 地元の土産物等の扱いなし

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

6

2-2. てだこ浦西駅における現状と課題

- バス停点在：駅前、駅近隣に多様な方面の路線バス停があるが、それぞれが離れて点在している
- 情報案内：上記の点在バス停や、駅周辺のレンタカーや施設への案内が不足している
- 休憩施設：駅及び周辺の暑さや雨風をしのげる十分な待合室等がない。



■周辺バス停の案内



バス運行本数は令和7年7月時点の平日（時刻表より）

100m © NTTインフラネット

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

2-3. 関係者ヒアリング、アンケート調査の概要（抜粋）

7

ヒアリング概要（交通事業者等）

● 交通事業者

- 対面/WEBヒアリング：4社回答済
- 調査票による調査：6社回答済

● 周辺事業者

- 調査票による調査：1社回答済



交通事業者

- ✓ 路線や時刻表、案内板の設置による案内の強化は必須である。
- ✓ 交通広場への路線集約も重要であるが、まずは既存の周辺バス停の更なる活用を促すことからだと考えている。（周辺バス停の利用が増えれば、駅前への集約検討に繋がる。）
- ✓ 様々な交通モードに乗り換えられる場が望ましい。
- ✓ 人が集まる賑やかさが必要（キッチンカーやイベント開催など）



商業関係者

- ✓ 商業施設内設置のデジタルサイネージを活用したバス運行情報の発信（同様に駅構内で商業施設を案内するなど相互にメリットのある形で連携）

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

2-3. 関係者ヒアリング、アンケート調査の概要（抜粋）

8

ヒアリング概要（駅利用者等）

● 居住者

- 街頭アンケートによる調査：109名回答
- WEBアンケートによる調査：200名回答

● 来訪者

- WEBアンケート調査：200名回答



居住者

- ✓ 広場正面における案内、高速バスとの乗り継ぎ時の看板、バスのリアルタイム情報の充実が必要
- ✓ 暑さ、風雨をしのげる快適な待合環境が欲しい
- ✓ コンビニ、カフェ、飲食店が欲しい



イメージ



来訪者
(観光客等)

- ✓ 駅周辺のレンタカー会社が欲しい
- ✓ ベンチ、屋根付きの歩道、改札外のトイレが欲しい
- ✓ 観光案内所やこの駅にしかないお土産や飲食店が欲しい

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

2-4. てだこ浦西駅に求められる機能

- ▶ 関連計画・現状分析・ヒアリング・アンケート調査等の結果を整理し、「てだこ浦西駅に求められる機能」を検討した。

現状分析、ヒアリング・アンケート結果

てだこ浦西駅に求められる機能

●各種二次交通の接続について

- ✓ 駅利用者数は順調に増加、高速バスとの接続、周辺施設へのアクセス等、広域、地域の拠点として十分なポテンシャルあり
- ✓ バス路線は多方面に運行するが、乗入路線は限定的、案内や待合環境も不十分
 - バスの遅延に対応したリアルタイム情報等のニーズ（駅利用者、来訪者）
 - 結節機能の強化の必要性は認識しつつ、現状路線の活用、利用増が優先（バス事業者）

交通（乗換）機能の充実

広域拠点、地域拠点を目指し、バス等の二次交通の機能拡大や集約、案内の強化、待合環境充実が必要

●新たなモビリティについて

- ✓ シェアサイクルなどは、今後区画整理により居住者数、駅周辺施設利用者数の増加が想定
 - カーシェアや電動キックボード等のニーズ（駅利用者、来訪者）

周辺施設へのアクセス利便性向上のため、多様なモビリティの充実が必要

●P&R駐車場、駐輪場について

- ✓ P&R駐車場は新規定期受付を停止中で容量がひっ迫
 - P&R駐車場不足は確実、利用者からも増床ニーズが多い（駐車場指定管理者）
- ✓ 自転車、二輪車も駐輪場をはみ出して駐輪が見られるなど、安全面においても課題

各駐車場の効率的な運用及び容量確保が必要

拠点形成機能の充実

利用者、市民、関係者から賑わい施設の充実が求められているため、高架下や歩行空間を活用した施設、イベント等の実施が必要

●賑わいの創出について

- ✓ てだこ浦西駅周辺の開発で、住宅施設や複合施設、教育施設等の整備が予定
- ✓ 駅周辺では、高架下やモノレールと駐車場の間のスペースなど、活用可能な空間が残存
 - カフェや飲食施設、休憩スペースなど周辺開発では網羅できない施設、人が集まる空間、子供が遊べる空間などの多様なニーズ（駅利用者、来街者）

ランドマーク機能の充実

本島中北部への広域観光の経由地として機能するための観光案内、その他防災機能の充実が必要

●観光面、防災面について

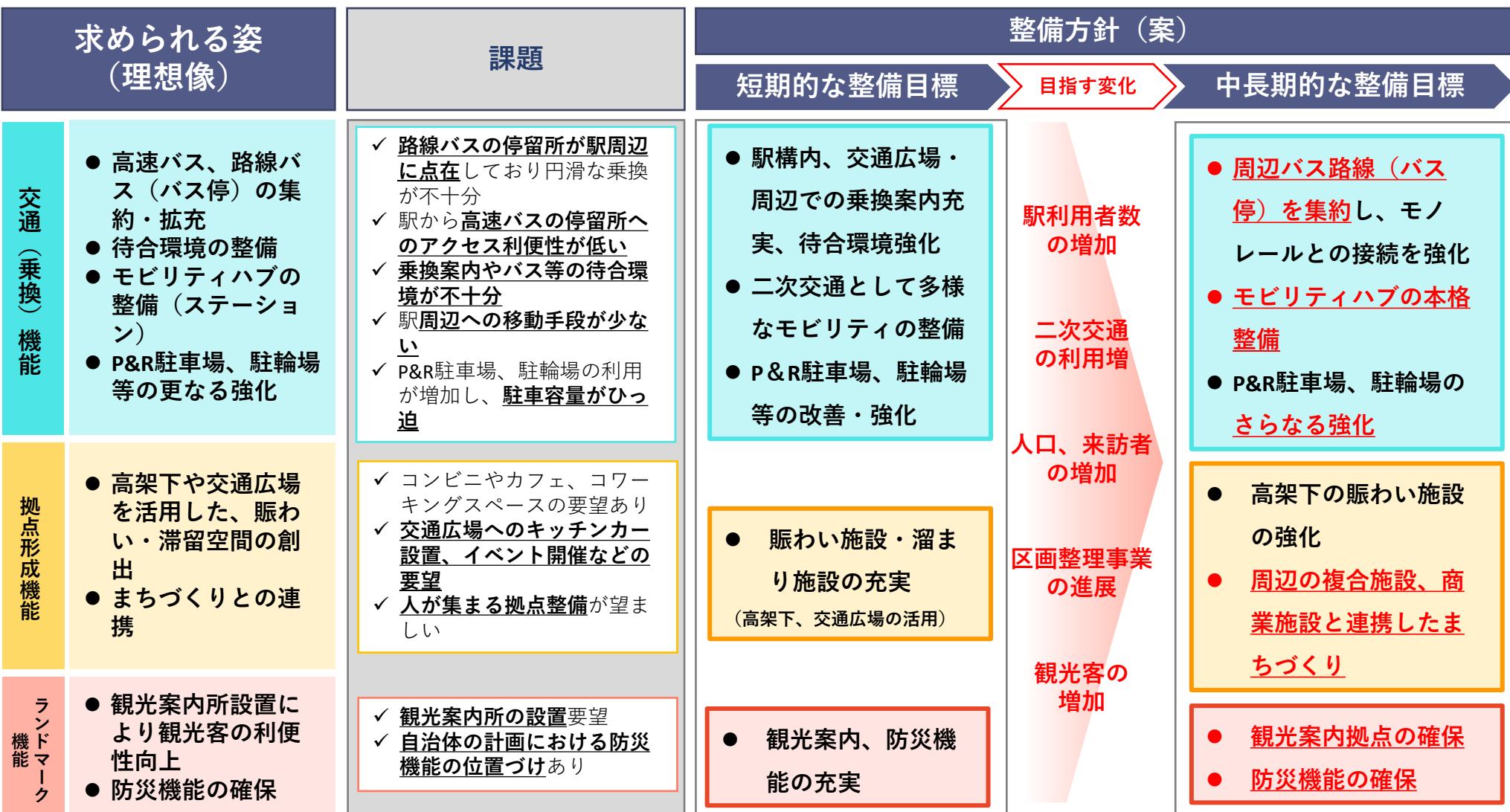
- ✓ てだこ浦西駅周辺を経由して本島中北部の観光地への移動が見られるが、観光地案内は不足
- ✓ 駅における防災機能等の充実は見られない
 - 観光情報の提供充実、お土産品の充実等のニーズ（来訪者）

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

2-5. てだこ浦西駅交通結節機能強化の整備方針（案）

10

▶ 求められる姿（理想像）の実現に向け、課題解決には、てだこ浦西駅を取り巻く環境の変化も踏まえ、段階的な整備を行う必要がある。



2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

2-5. てだこ浦西駅交通結節機能強化の整備方針（案）－イメージ

11

交通（乗換）機能

- バス（高速・路線バス等）の集約・拡充
- 待合環境、モビリティハブの整備
- P&R駐車場、駐輪場等の更なる強化

拠点形成機能

- 高架下や交通広場を活用した、賑わい・滞留空間の創出
- まちづくりとの連携

ランドマーク機能

- 観光案内所設置により観光客の利便性向上
- 防災機能の確保

高架下活用

観光・防災機能の確保

賑わい形成

乗換機能の強化

駅前広場からのイメージ

高架下イメージ

浦添西原バイパス（高架）

バス 待機所 駐車場 モビリティ ハブ
観光・待合 飲食・商業

イメージ図：将来の交通結節点（沖縄県総合交通体系基本計画より）

バス集約

（八重洲バスターミナル）

バス待合所

（八重洲バスターミナル）

デジタルサイネージ案内

（JR岐阜駅）

観光案内所

事例：東京シティアイ観光情報センター
出典：日本政府観光局

イベント開催

（ゆいレール祭り）

2. 令和6年度に作成した整備方針（案）

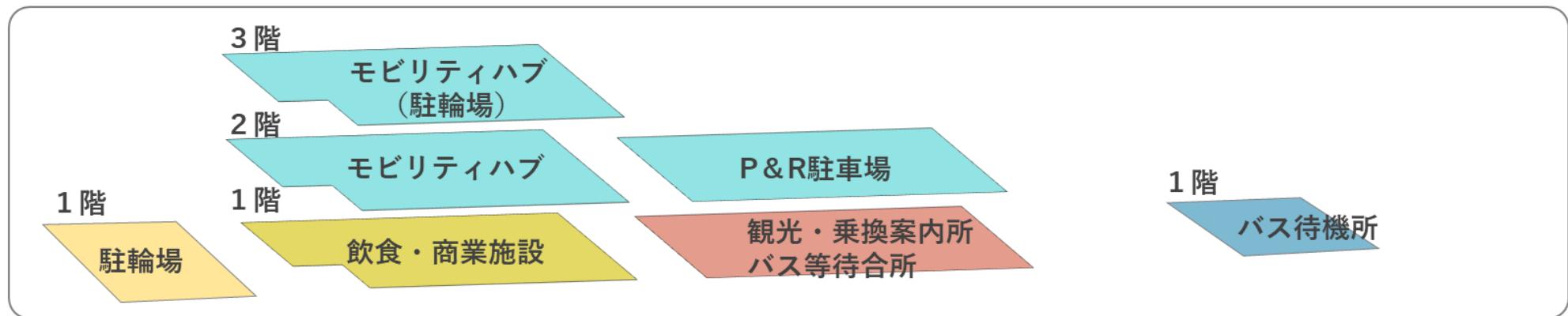
2-5. てだこ浦西駅交通結節機能強化の整備方針（案）－イメージ

12

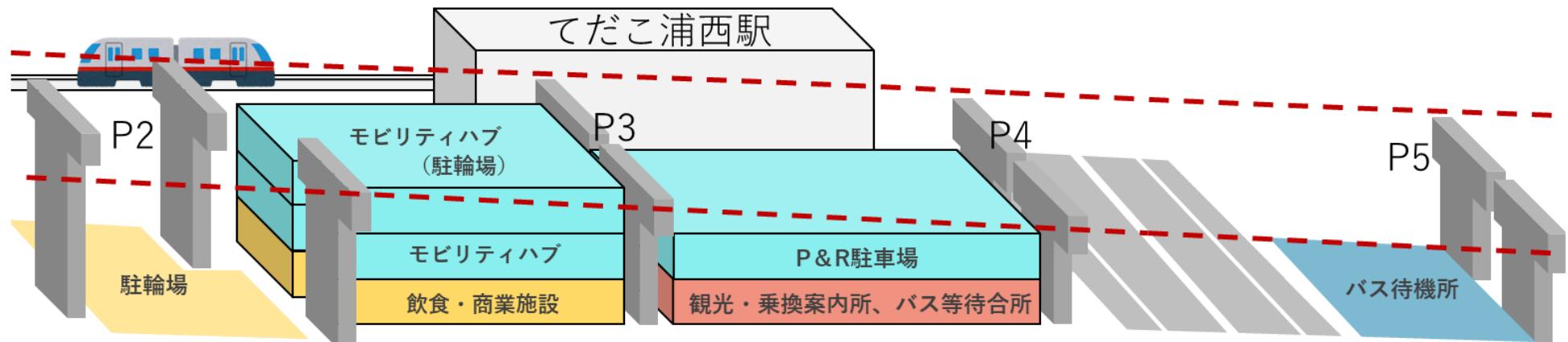
高架下活用した賑わい空間の拡充（イメージ）

高架下を活用し、交通機能としてモビリティハブの整備、拠点形成として商業施設等の整備、ランドマーク機能として観光案内を整備

高架下のフロア構成（※南側・駅反対側からの視点）



高架下の空間活用イメージ（※南側・駅反対側からの視点）



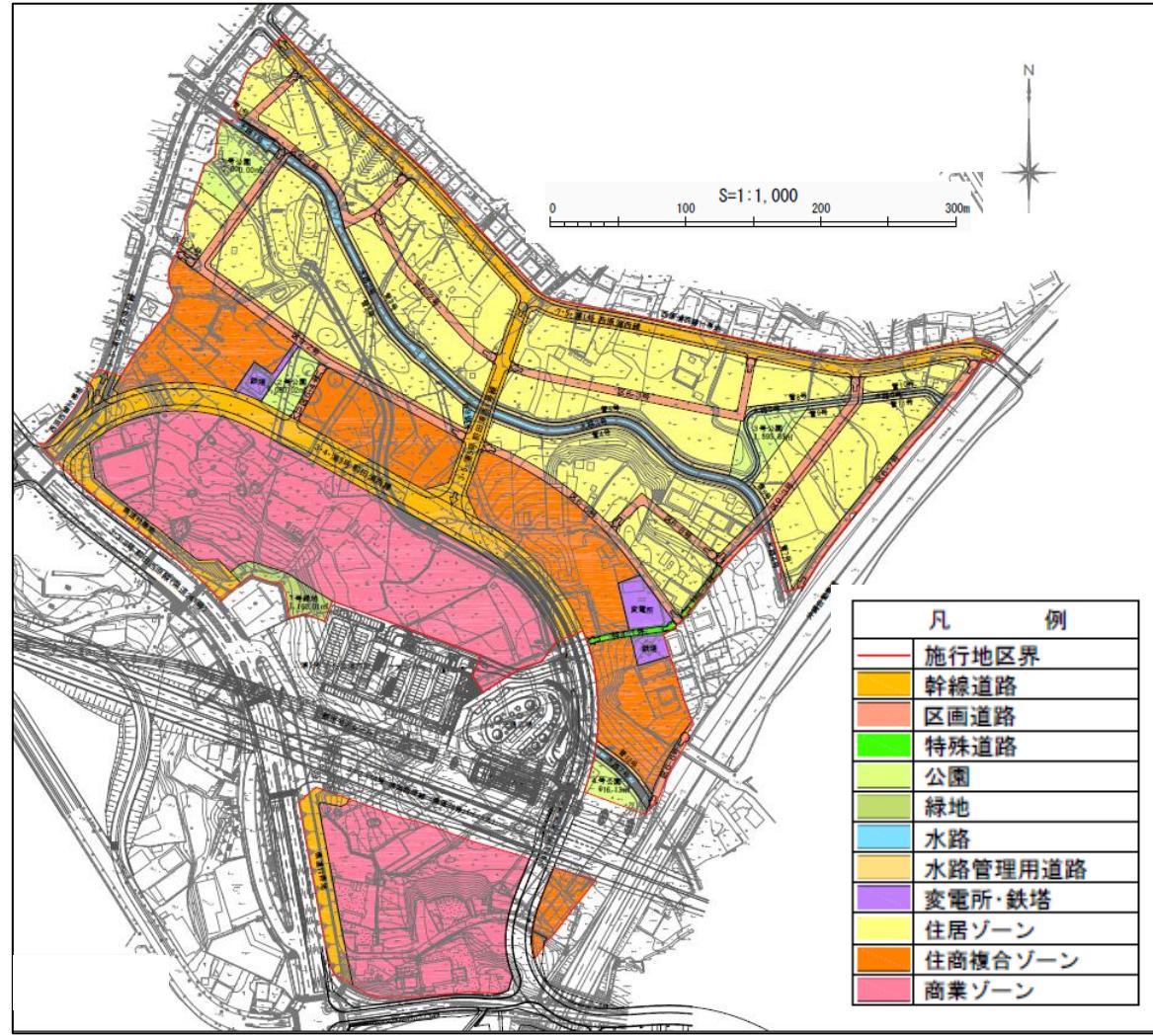
2-6. (参考) 本検討における計画範囲

- てだこ浦西駅交通結節機能強化における具体的な検討の範囲は、てだこ浦西駅・駅前交通広場・浦添西原線高架下などの空間。
- 駅周辺では区画整理事業が進展中。（てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業）

■てだこ浦西駅交通結節機能強化検討範囲



■浦添市てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業（土地利用計画図）



3. 令和7年度の業務内容

3-1. 業務概要、スケジュール

14

【検討概要】

① 本検討会の実施運営

多様な関係者での意見交換

② 意見聴取（PI）の実施

住民、学生、観光客等から整備方針（案）に対する意見を募集

③ 実証実験内容の検討

令和8年度に実施する実証実験の内容について検討

④ 整備計画（案）の策定

整備方針（案）、検討会、PIを踏まえた整備計画（案）を策定

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会		● 第1回 (8/19) 今回検討会 ▷ 整備方針（案） ▷ PIの実施内容		● 第2回 (11月上旬) 第2回検討会（想定） ▷ PIの実施状況 ▷ 実証実験検討状況		● 第3回 (1月下旬) 第3回検討会（想定） ▷ 整備計画（案） ▷ 実証の内容		
PI		● 琉球大学ワークショップ (8/21)	● 住民ワークショップ (9月下旬～10月上旬)	● 観光客向けアンケート等				
実証検討		● 県庁オープンハウス (8/4～8/8)	● 事業者向けヒアリング	● 随時実施				

4-1. 意見聴取（PI）のターゲット設定

【PIのターゲット設定】

- 交通機能、拠点形成機能、ランドマーク機能の3つの機能を高める施策の具体化に関する意見を把握。
- 短期（特に交通実証実験）、中長期（特にまち開発との連携）のてだこ浦西駅の整備イメージの具体化を目指す。
- てだこ浦西駅及び周辺の主要な利用者像である、①地域住民（近隣/広域）、②大学関係者、③来訪者、④事業者をターゲット層とする。

→ 異なる利用者像から、多様なニーズについて把握

ターゲット	利用者像	PI実施方法	把握したいこと			まとめ方 (反映方法) ※主な視点
			整備方針 について	短期的な 整備内容	中長期的な 整備内容	
① 地域住民	近隣/広域生活者	ワークショップ、 オープンハウス	各立場からの 3つの機能 (交通機能、 拠点形成機能、 ランドマーク 機能) に対する 意見出し	結節する交通の利 用意向（生活利 用）	各立場で乗換、滯 在したい場づくり の意見出し	地域住民ニーズに対応 した交通結節や待合環 境の整備等に関する施 策をまとめる
② 大学関係者	通勤、通学者等	ワークショップ、 オープンハウス		結節する交通の利 用意向（通学利 用や生活利 用）		大学をはじめとした近 隣施設との交通サービ ス確保に向けた施策を をまとめる
③ 来訪者 (観光客等)	来訪・乗継ぎ 利用者	アンケート、 オープンハウス		結節する交通の利 用意向（観光利 用）		情報案内強化など観光 に関連する結節点強化 施策をまとめる
④ 事業者 (まち、開発等)	開発者、関係者	個別ヒアリング		実証実験など、短 期的に実施でき る事業の関係事業者 と調整	まちづくり連携や 拠点整備など、中 長期的な取り組み が必要な事業の関 係者意見調整	事業者と連携して実施 する施策をまとめる

4. PIの実施内容

4-2. 実施方法

16

① 地域住民

- 実施方法：ワークショップ形式
- 対象者：近隣住民（てだこ浦西駅周辺）、広域住民（宜野湾市、西原町、中城村など）
- 実施規模：各回20～30名程度
- 意見交換内容：近隣、広域住民の立場から、求められる機能（3機能）の意見交換、短期的な実証実験、中長期的な具体的施策、自身の利用意向について



② 大学関係者

- 実施方法：ワークショップ形式
- 対象者：琉球大学生（40名程度）、その他の学生など
- 意見交換内容：学生・通学・通勤者の立場から、求められる機能（3機能）の意見交換、短期的な実証実験、中長期的な具体的施策、自身の利用意向について

※琉球大学ワークショップは8/21に実施予定



③ 来訪者

- 実施方法：アンケート、オープンハウス形式
- 対象者：移動形態が多様な観光客、来訪者など
- 実施内容：てだこ浦西駅内のブース設営、アンケート調査を想定し、全体の方針案等を提示したうえで、観光等の視点からの意見聴取を実施



④ 事業者

- 実施方法：個別ヒアリング形式
- 対象者：施策連携の可能性のある事業者・関係者（交通、観光、まちづくりや開発、自治体）
- 実施内容：今後の事業展開における連携可能性、実証事業内容等について意見交換



5-1. 実証実験の方針

【実証実験内容の検討】

- てだこ浦西駅の結節機能強化に向けて、必要とされる機能においての実証実験を予定している。（令和8年度予定）
以下、現時点で想定される内容をいくつか整理する。

【① 周辺バス停の乗換案内強化】

てだこ浦西駅の最重要課題の一つである高速との結節、
多方面の路線バスへの乗換利便性向上に資する施策にかかる実証を想定する。

実証実験の内容（想定）

- 駅周辺バス停の乗換案内の強化として、デジタルサイネージ（リアルタイム
バス運行表など含む）を仮設置する。



【② にぎわい創出に資するイベント開催、キッチンカー等の設置】

駅の賑わい創出に向け、空間を活用した実証を想定する。

実証実験の内容（想定）

- 交通広場等を活用したイベント開催（既存イベントの頻度増、規模拡大など）
- キッチンカー等の仮設置（一定の期間を確保する）
- 周辺商業関係者と連携した取り組み（各種サービス）



事例：ゆいレールまつり



事例：敦賀市国道8号（ほこみちプロジェクトHP）

5. 今後実施すべき実証実験の方針

5-1. 実証実験の方針

18

【③ 琉球大学方面バスの運行拡大】

県の既存計画（右図）では、てだこ浦西駅周辺から各種移動手段を活用して周辺地域への有機的な接続を目指しており、駅近隣にあり移動需要の見込める大規模施設である琉球大学への接続を強化するための実証を想定する。

実証実験の内容（想定）

- 駅から琉大方面（西普天間方面）への早朝便の拡大
- 駅と琉大方面間の日中の増便（学生等ニーズ要調査）



引用：琉球大学HP掲載図 (<https://www.u-ryukyu.ac.jp/access/>) を基に沖縄県作成



図 6-2 モノレール延長エリアの施策展開方針

引用：沖縄本島中南部都市圏都市交通マスターplan（平成21年3月 沖縄県）

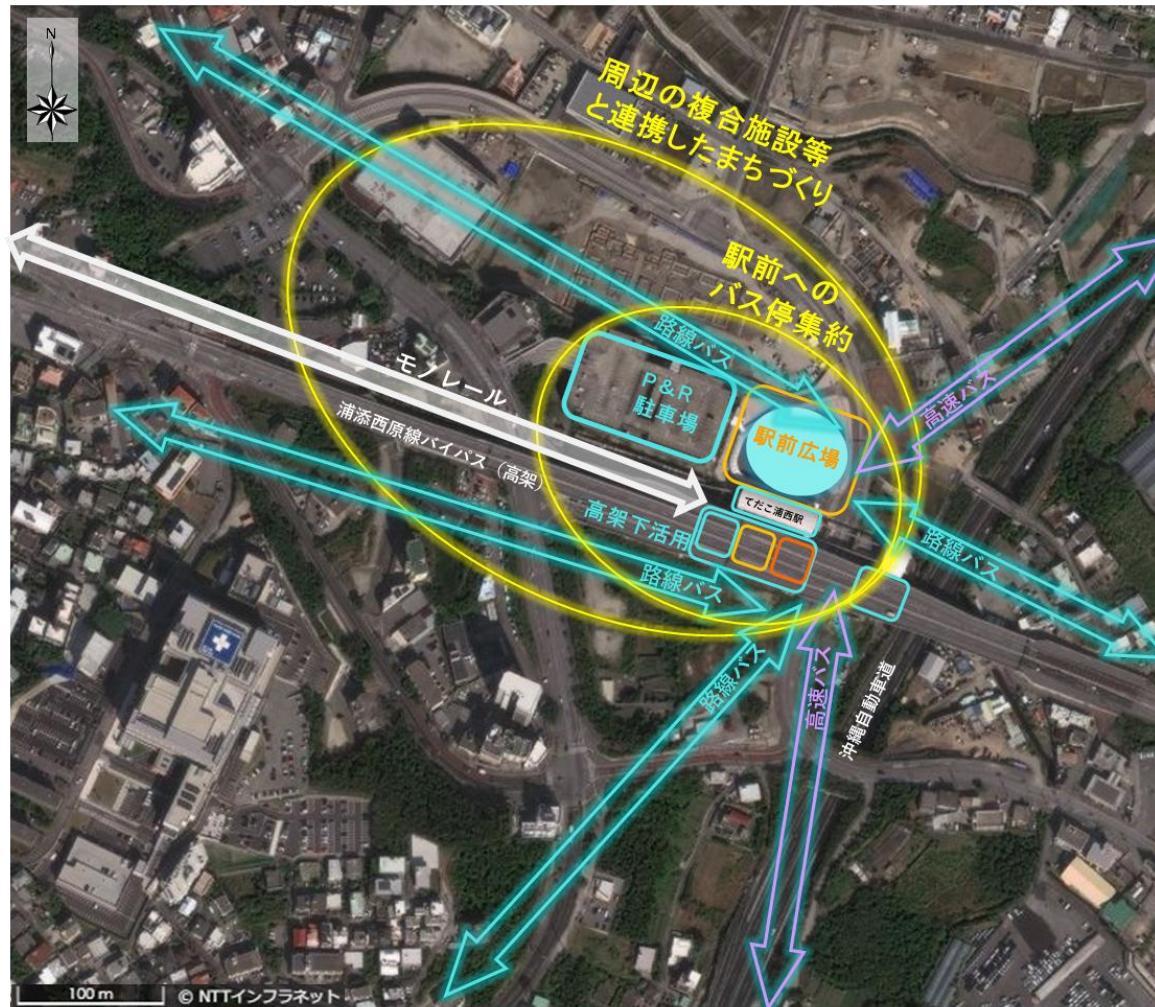
6-1. 意見交換にあたっての視点

【意見交換①】整備方針（3つの機能）について

➤ 3つの機能（交通、拠点形成、ランドマーク）について、各立場において求められる内容が正しく反映されているか。

（各立場：近隣・広域住民、通勤・通学利用者、観光客、事業者など）

ビジョンの共有



中長期的な整備イメージ

- 周辺バス路線（バス停）を集約し、モノレールとの接続を強化
- モビリティハブの本格整備
- P&R駐車場、駐輪場のさらなる強化

交通（乗換）機能

高速バス ⇌ ・路線バス ⇌ の駅前乗り入れ（周辺バス停の集約）

高速バス及び多方面のバス乗り場を駅前に集め、モノレールを含む乗り継ぎ利便性を強化
それにあわせ、案内、待合環境の強化

- 高架下の賑わい施設の強化
- 周辺の複合施設、商業施設と連携したまちづくり

拠点形成機能

- 観光案内拠点の確保
- 防災機能の確保

ランドマーク機能

高架下活用した賑わい空間の拡充

高架下を活用し、交通機能としてモビリティハブの整備、拠点形成として商業施設等の整備、ランドマーク機能として観光案内を整備

高架下イメージ 駅前広場からのイメージ

浦添西原バイパス（高架）



賑わい・溜まり施設の強化 (周辺部施設・まちづくりとの連携)

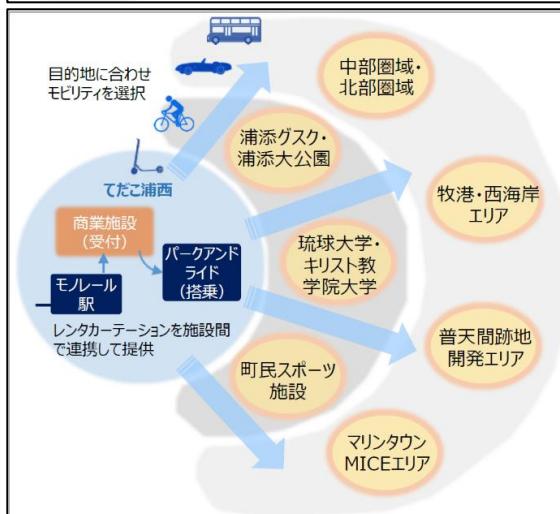
周辺の複合施設や商業施設との連携

6-1. 意見交換にあたっての視点

【意見交換②】まちづくりの視点について

- 駅周辺地域のまちづくり方針、地域の声（今後PIで適宜追加）を踏まえた機能強化内容となっているか。
- 交通利便性向上からまちをつくる「交通まちづくり」に向けた正しいアプローチができているか。

交通	中部・北部圏域との広域連携 MaaS マイクロモビリティ <ul style="list-style-type: none">てだこ浦西への期待は県内の広域交通拠点（北部アクセス）交通は都市機能を誘導する役割にあるMaaS（Mobility as a Service）に関しては推進中（沖縄MaaS実証事業）デマンドコミュニティバス（うらちゃんmini）を令和2年度から実証実験開始
産業・観光	大規模ホテル 大型商業施設 IT企業向けオフィス <ul style="list-style-type: none">てだこ浦西への期待はホテル・大型商業施設（お土産物販）・IT企業用オフィスの誘致ホテルは祝賀が開けるような大規模な施設が望まれるIT企業用オフィスはモール沿線のニーズが存在（IT企業と県物産公社から問合せあり）観光に関して浦添前田駅が拠点で、てだこ浦西駅は宿泊・物販拠点として連携したい令和3年11月から令和4年1月にかけて電動キックボード実証事業を開催
防災	災害復旧の拠点 防災に向けた連携強化 <ul style="list-style-type: none">てだこ浦西への期待は災害時の物資等輸送拠点分散エヌと市との防災連携を結び、エネルギーセンター内に災害時物資を貯蔵ボストロナとして、医療物資の貯蔵、感染症対策を徹底した避難所運営が必要県警、医師会との広域的な連携などの取組みも有効



■にぎわい創出に向けたアプローチ

駅における交通利便性（乗換機能）の向上

人が集う、にぎわう

交流する場、憩いの場（商業機能等）の提供

※駅を取り巻く環境の変化等を踏まえ、段階的な整備に取り組む

6. 意見交換項目

6-1. 意見交換にあたっての視点

21

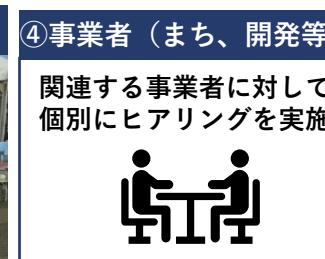
【意見交換③】PI（住民等参加）の実施方針について

➤ てだこ浦西駅の整備方針も踏まえ、正しくターゲット層が設定されているか。（説明資料 p.15～16）

①地域住民、②大学関係者、③来訪者（観光客等）、④事業者（まち、開発等）

➤ より効果的なPI実施方法となっているか。

※PI実施に関して、連携可能性のある各取組や、実施できる機会、集まりなどの情報があれば共有願います。



【意見交換④】実証実験内容（想定）について

➤ てだこ浦西駅の整備方針も踏まえ、優先的に取り組むべき内容となっているか。（説明資料 p.17～18）

①周辺バス停の乗換案内強化、②にぎわい創出に資するイベント開催、キッチンカー等の設置、③琉球大学方面バスの運行拡大

※実証実験実施に関して、連携可能性のある各取組などの情報があれば共有願います。



引用（1）：うるま市HP（勝連城跡周辺回遊ルートの創出・展開に関する住民意見交換会）
引用（2）：さいたま市HP（新庁舎整備及び現庁舎地利活用の検討）